

## 米国カリフォルニア州 ネーブルは概ね順調だが近年輸出率が減少

[FreshFruitPortal](#) 2025年9月24日

### カリフォルニア州産ネーブルオレンジは市場動向の変化により品質維持が鍵

カリフォルニア州柑橘類協会のケーシー・クリーマー会長兼CEOは FreshFruitPortal.com(本サイト)に対し、同州産ネーブルオレンジは果実のサイズが改善し、業界は平均的な作柄を見込んで準備を進めていると述べた。ただし、病虫害の発生圧力と市場動向の変化が業界の期待を損なう可能性がある。(以下「」は同氏の話)

「今年はより最適な果実サイズになっている。着果数は減少したが、サイズはやや大きくなっており、今季は非常に良い販売シーズンになると考えている。」

カリフォルニア州食品農業局(CDFA)の最新の報告書によると、ネーブルオレンジの生産量は2024年の7,800万箱に対して約6%増となる8千万箱と見込まれている。ただし、同氏はこの数字を慎重に解釈すべきであると指摘する。

「昨年の実績の推計値は7,800万箱で、今年の見込みは8千万箱である。これはほぼ同水準だが、内訳では早生、中生、晩生など微妙な違いがあり、業界として評価する際には様々な要素が関係している。」

### 害虫被害と市場動向

クリーマー氏は、昨年よりも害虫被害が増加しているものの、過去の深刻な水準には至っていないと説明する。「昨年よりもアザミウマによる被害が多い。2年前ほどではないが、被害は出ている。また、コナカイガラムシの発生もやや増加している。」これらの害虫被害により平均単収がやや減少し、総収穫量はCDFAの予測を下回る可能性がある。

さらに近年、市場の構成も変化している。従来、柑橘類の輸出は出荷量の約30%を占めていたが、2017-18年度以降は約20%に減少し、残りの80%は国内市場に留まっている。「中国向け及び他の一部の市場向けも減少したため、国内市場への依存を高めざるを得なかった。」同氏はまた、2000年以降に柑橘類の輸入量が414%増加しており、生産者の収益にさらなる圧力をかけていると述べた。

カリフォルニア州産ネーブルオレンジのほぼ全量が生食用として販売されており、果汁向けの生産は生産コストの上昇と果汁価格の低迷によりごく一部に限られている。同氏は、生食用の基準を満たさない果実は果汁用に仕向けられることが多いと説明する。

### 量よりも品質を重視

同氏は、環境の不確実性や増収圧力がある中でも、果実の品質維持が最重要であると強調する。「品質は最優先事項でなければならない。できる限り最高品質の柑橘類を生産しなければ市場シェアを失う。カリフォルニア州はコストの高い環境であり、低品質の製品では生き残れない」と語った。

長年の貿易相手国であるカナダによる最近の報復関税撤廃について同氏は、「輸出市場の改善に向けた良い兆しである」と評価している。

カリフォルニア州柑橘類協会は、現在の課題に対して生産者支援に積極的に取り組んでいる。クリーマー氏は、生産者、業界関係者、政府関係者、メディアとの強固な関係基盤があり、これが新たな課題に対する迅速な提言と対応を可能にしていると言う。

「課題が発生するかどうかではなく、いつ発生するかが問題だと認識しているので、こうした基盤は、どのような課題が発生しても対処できるようにするためのインフラ整備の例である。」

執筆者: カルラ・エピノーザ・グティエレス